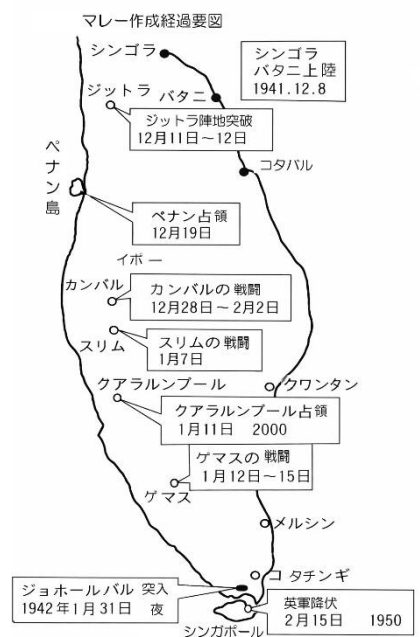


日本軍、マレー半島上陸

1941年12月8日の真珠湾攻撃は有名である。だがそれより2時間早く日本軍はマレー半島コタバルへの上陸を開始し、英軍と戦闘状態に入っていた。

同日、シンガポールシティも爆撃され61名の死者を出している。太平洋戦争はハワイ、フィリピン、マレーの三方作戦であった。その中でもマレー作戦は遠大でシンガポールを正面から攻撃せず、タイ、マレーシアを南下しての背後からという英軍の予想をこえた作戦だった。そのために英軍が、セン

トサ島に構築した砲台は何の役にも立たなかった。コタバルでは14時間に及ぶ激闘が行われ、死傷者700名を出し、英軍100名を捕虜にした。



日本軍、ジョホールバルへ

日本軍は1942年2月11日のシンガポール占領をめざし一路南下。有名な銀輪(自転車)部隊である。パンクを修理し、新しい自転車を奪っての行進であった。マレー半島およそ一千キロをわずか50日余で各地を占領し、ジョホールバルに達するという不眠の強行軍であった。読売新聞1月20日付の記事によれば、「ジョホール水道まであと〇〇キロ……この水源をわが手中に握られれば、死か降伏

かのほかはないであろう」と伝えている。そして、ついに1月31日夕、ジョホールバルに突入し、サルタン宮殿を占拠したのであった。

シンガポール上陸

ジョホール王宮の丘の上に立つと、シンガポールは一望の下に見下すことができる。日本軍はそこに大砲をすえ上陸作戦を助けたのである。だが、連日の対岸からの砲撃で日本軍は一週間、釘付けにされた。

2月8日0時40分、近衛師団は陽動作戦としてウビン島に上陸し、対岸のチャンギー要塞に砲弾を集中した。英軍も盛んに応戦したため終日激烈な砲戦が変えられた。要塞近くのチャンギー監獄には日本人捕虜が収容されていた。その間に主力は二隊に分かれ、一方はクランジ河の河口附近からセンバワン、一方はテンガー飛行場めざして作戦を開始し、9日午前0時25分、上陸に成功した。



ブキテマ高地の死闘

ブキテマ高地の死闘はブキテマ三叉路、マウントフェーバーとともにシンガポール戦最大の激戦であった。

防衛庁戦史によれば2月11日、「砲弾はいぜんとして続き、ブキテマの村落はたちまち破壊し尽された。戦闘は激烈を極め英軍は頑強に抵抗した。両軍とも損害が続出して戦況は進展をみなかった」とある。ここでは英軍とあるが、実は最も激しく抵抗

したのは抗日に燃えていたダル戦闘隊とよばれた華僑抗日義勇軍のメンバーであった。2月12日夜半、ついにブキテマ高地は日本軍の手に落ちた。2月13日にはワッテンパーク附近を占領したが英軍の抵抗は激しく15日に至ってようやくマクリッチ南側の陣地を攻略したところで突然、降伏の軍使が現れた。(社会科資料集『シンガポール』シンガポール日本人学校中学部編、1984年3月より)